

## 地元小学生と「ヤマメの稚魚放流」を実施

— 元気にもどってきてね —

北海道川上郡弟子屈町

6月3日（水）、道営地域用水環境整備事業（魚道整備）最栄利別地区で建設した魚道工で、弟子屈町立奥春別小学校の全児童14名が「ヤマメの稚魚放流」をおこなった。

この取組は、奥春別小学校が実施している「ふるさと体験学習」の一環として、地元を流れる最栄利別川で「自分たちの住んでいる地域の川にはどんな魚や生物が棲んでいるのか」「魚や生物にとって棲みやすい川にするにはどうすればいいのか」など、そこに棲む生き物を通じて環境



保護への意識向上と、農業農村整備事業の役割について理解を深めてもらうことを目的に、工事の進捗に併せて平成19年度から実施しており、今回が3回目となる。

1回目は平成19年10月に実施した魚類相調査に併せて行った。子供達も採捕を手伝いながら、上流と下流で棲む魚が違うことや途中にある段差（落差工）が原因で魚が行き来出来ないことを知り、魚道の必要性や環境保護について理解を深めた。

2回目は平成21年1月に工事現場見学会を実施した。真冬の工事で雪も多く、寒い中での見学会であったが、川底のブロックなど普段は水の中で見る事が出来ない部分も見ることが出来、階段状の構造を見て、魚が遡上することに期待を膨らませた。

今回の稚魚放流に先立ち、教頭先生から、放流した稚魚たちは3年ほどで戻ってくることや、魚たちが元気で戻ってくるように皆さんも元気に声を掛けながら放流しましょうとお話があった。また、弟子屈町農林課課長補佐からは、5月に開催された弟子屈町主催の第29回少年の主張弟子屈大会小学の部で、同校6年生の那須樹君が、この体験学習をもとに「魚道と魚の関係」と題して「魚道の必要性」や「環境保全の大切さ」を訴え、最優秀賞を受賞したことが報告され参加者全員から大きな拍手が送られた。最後に釧路支庁農村振興課主幹から最栄利別川に魚が沢山戻ってくるようにとの思いと、放流の際は川に落ちてケガなどしないよう注意事項を説明し放流を開始した。

子供達は、「元気にもどってきてね」と優しく声をかけながら約2,000匹の稚魚を放流し、稚魚たちが元気よく泳ぐ様子や、すぐに上流に向かって魚道を上ろうとする姿を歓声を上げながら観察して、生き物の力強さや環境保護の大切さを実感した。

今後の取組としては、当支庁では完了年となる平成23年度に効果検証のための魚類相調査を実施する計画であり、弟子屈町では今回放流した稚魚が遡上してくる3年後を目処に、体験学習を実施して子供達と共に生息状況の確認をおこなう計画である。